

松本市広報R7-11

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153

●編集 公民館報編集委員会

●印刷 株式会社プルルト

公民館報

発行
2025

5/30

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 73

ようこそ松本へ

松本城は海外からの観光客にも人気
異国の文化に笑顔があふれる

(撮影 2025.4.29 松本城本丸庭園)

住民の力を結集！ 公民館に防災井戸を掘る

自主防災計画により避難時の対策を実施している公民館が多くあります。その中で、生活用水の確保のために、町内公民館として井戸を掘った2つの例を紹介します。

「命の見える化」を目標に生活用水を整備

〜島内地区 島高松公民館

近年、転入者の増加により古くからの住人が少数になりつつあります。そこで、町会だよりには住民の顔が見える記事を多く掲載するなど、住民の連帯を深める「命の見える化」を目標に活動を行っています。



住民のための安心と憩いの泉

きました。

そのかいあってか、この度住民有志が井戸を掘り、それを町会へ寄付してくれました。地下30メートルから質の良い水を得ることができました。

井戸には、「松本市災害時協力井戸」として登録された標章が付けられ、「ひろばの泉」として整備されました。普段はモーターによりくみ上げ、せせらぎに水を流しています。災害時には生活用水として使えるよう発電機を使用してくみ上げます。

次のステップとして、公民館の屋根に太陽光パネルを設置し、電源の確保を計画しています。

災害発生時も住民のよりどころを目指して

〜松南地区 双葉町公民館

企業が多い双葉町会では、長年「事業所と語る会」で災害時の井戸水の活用が話題となってきました。昨年度の公民館建て替えの際、それを覚えていた町会内の建設業の企



見慣れない手押しポンプに大興奮

業から全面協力を得て、地下30メートルから良質な水を確保しました。古墳時代からの「水の郷」の恩恵でもあります。公民館の庭には、今時珍しい手押しポンプと電動水中ポンプが併設されています。災害時にも発電機でくみ上げできます。

「前庭はまだクローバーが育成中ですが、子どもの遊び場になります。また大人にも井戸のカフェで語らう場となつてほしい」と公民館長は話してくれました。

公民館は、災害時の身を守るよりどころとなります。災害時はむろん、平時においても水を中心として住民の暮らしがより親密になっていく場所となることが期待されます。

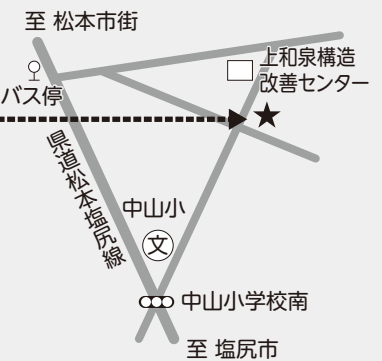
わがまち自慢 中山地区

和泉の湧水

和泉町会の高台に、湧水を利用した水場がお目見えしました。落成は昨年の4月末、上和泉常会の有志や中山地区の鈴木公民館長などが中心となって整備されました。



起案から1年で実現!!



会からの補助でまかないでしたが、手荷物置き場や踏み石の設置など、全て有志による手作りで。最近では徐々に認知度も上がり、地区の外から訪れる人も増えています。

和泉町会は昔から湧水に恵まれ、この水場も四季を通じて一定の水量を保ち、地元の人に親しまれてきました。道路整備によって水場が埋まる計画が持ち上がったこともあり、数メートル移動して使い勝手の良い設備を整えられました。資材は和泉町会や上和泉常会も利用してもらいたい」と



取材中にも利用者が...

有志代表の藤森前公民館長は話します。檜ヶ岳や常念岳を望める絶景の高台でひと息つきながら、心地よい水音にしばし耳を傾けてはいかがでしょう。

視点

②1 松本大学 平和創造研究会
平和を学び、
未来へつなげる

若者が学ぶ「平和」

終戦から80年を迎えようとしていきます。戦争を体験した人が少なくなっている中、平和を未来へ伝えていく若者がいます。松本大学の平和創造研究会は、菅谷昭前学長の「若者が平和について学んで発信してほしい」という思いに基づき、現在8人の会員が活動を行っています。

研究会代表の宮坂真由さん

(教育学部3年)は「教員になるにあたって、平和について学びたい」と考えて活動し

ています。戦争の被害を受けた長崎や鹿児島などでの研修から体で感じた戦争の怖さを若い世代に伝えていくために、「さらに学びを深めないといけない」と使命感を持っています。



特に印象に残っている「知覧特攻平和会館」

命と平和を大切に

平和創造研究会の活動のひとつに「いのちと平和の森」の維持があります。この森は

アルプス公園の近くにあり、NPO法人が育てています。人々が生きた証として樹を植え、命と平和の大切さを伝えていきます。研究会の学生は森の草取りやフルートの演奏会を通して、地域の方と交流しています。

自分の言葉で伝える

研究会は昨年、俳優の紺野美沙子さんを招き、「平和朗読会」を行いました。紺野さんによる戦争に関する絵本の朗読に感動し、次は自分たちが伝える番として、小中学生への読み聞かせを行いたいと考えています。

宮坂さんは研究会の活動を通して、「教員になったときに、自分が身をもって学んだ



壮大な樹が育つ「いのちと平和の森」

ことを自分の言葉で伝えていきたい」と話してくれました。研究会では、沖縄や台湾への平和研修を予定しています。「先人たちから学んだ平和を未来へつなげる」使命を担う平和創造研究会の活動に、今後も注目です。

動画はこちら



写真でつづる
まつもと今昔⑥8

～田園地帯を特急がゆく～



(撮影：1988.5)

田植えが終わった田園を走る特急あずさ。遠方の東山の姿は変わらないが、2007年3月18日に開業したJR平田駅と跨線橋により、近景は時代とともに変わっている。40年前にここに駅ができるなんて、誰が思っただろうか？あずさは183系から現在はE353系電車で運行されている。



(撮影：2025.4.24)

周りは市街化区域で開発と宅地化が進んでいるが、並行して市街化調整区域の農地が隣りあっている。松本から塩尻に向かう窓から、目の前で田んぼが眺められる区域はここだけである。

おこひる

娘が里帰り出産をした。上の孫たちも一緒に過ごしたので、家庭が一気にぎやかになった。孫との毎日は、食事に洗濯、学校

に保育園など久々にあわただしくなった▼少々動きの鈍くなった頭と体をフル回転しているつもりが、間に合わない事も多い。しかし落ち込んでいるひまはない。目の前の孫の相手をしながら手足を動かしながら。そんな中でも、新生児の泣き声や上の孫のケンカの声さえ愛おしい▼嵐のような日々はあつという間に過ぎ、また静かな生活に戻った。母として頼もしくなった娘と、孫の成長を目の前で感じられたのは、とても幸せな時間でもあった。自分の子育ての時も、母たちにはいぶん助けってもらった。こうして人はつながっていくのだと思う▼今更ながら母には感謝の思いでいっぱいである。今はこの子たちの未来が争いのない、平和で輝けるものであることを願うばかりである。





中山史跡めぐりマップ
お楽しみください

和泉の名が初めて文書に出てくるのは、文明11(1479)年の「御符札之古書」です。和泉の地名の元は、箱井にある箱井権現の泉が由来になっています。民話の泉小太郎の生誕地は、和泉八幡社の上にある産ヶ坂だと伝えられています。

泉小太郎の生誕地

中山の異名

新しい村の発足にあたり、村名について戸長などが協議を重ねました。中山(霊園から弘法山までを含む)の異名「法螺貝山」の近くにある村なので「法螺貝村」ではなくか。ほかに「埴神村」や「神和原村」などさまざまな意見

再発見!! まつもと地名がたり 11

村の中にある山から… 中山地区

中山は縄文時代から多くの土器や古墳などが発掘され、変わらぬ自然が残されている地

明治7(1874)年に、埴原村、和泉村、上和泉村、神田村が合併して中山村が誕生しました。

埴原の牧

埴原の史跡埴原の牧は、奈良時代以前から置かれ、朝廷

昭和18(1943)年に神田は、松本市に分離合併し現在の中山地区の形になりました。

がありましたが、「中山村」とすることに一致しました。中山という山名は、村の中にある山という説があります。また、ほら貝を伏せたように見えることから「法螺貝山」とも呼んでいたようです。



法螺貝山をみる! (岡田から中山を眺め)

松本平の野鳥たち

サンショウクイ (2021年5月松本市中山 写真提供:信州野鳥の会)

ヒヨドリよりやや小型でほっそりした体型。頭から背が黒っぽい灰色で尾は長め。「ヒリリン・ヒリリン」と飛びながらよく鳴く。この鳴き声が「山椒の実は小粒でもピリリと辛い」ということから名付けられたという説が有力。アルプス公園でも代表的な夏鳥。

まつもと散歩

時が満ちて 光あふれて 春はうららか

(撮影: 2025.4.12 開智公園)

2025年3月30日号の記事に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。今後記事の正確性には、細心の注意を払ってまいります。

6面「まつもと地名がたり」3段目 小見出し (誤) 梓川対岸にも新村がある (正) 削除
本文 (誤) 新村が管理している社 (正) 岩岡神社の氏子の皆様が管理している社